

第三者評価結果

事業所名：太陽の子不動下保育園

A-1 保育内容

A-1- (1) 全体的な計画の作成	第三者評価結果
<p>A-1-(1)-①</p> <p>【A1】 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。</p>	a
<p><コメント></p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・全体的な計画のフォーマットは児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨に則って本社にて作成し、定期的に園からヒアリングを行い見直しをしている。 ・全体的な計画は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成しており、保育に関わる職員が参画して編成し、毎年見直している。全体的な計画をもとにリーダーが年間計画を作成しクラスで共有している。 	
A-1- (2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	第三者評価結果
<p>A-1-(2)-①</p> <p>【A2】 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。</p>	a
<p><コメント></p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・保育環境スケールの研修を年齢ごとに実施し、各担当が知識を持ち、環境を整備している。 ・本社職員が現場の困りごとを訪問コンサルできる体制を整えている。 ・保育環境に関する修繕等に関しては本社専門部署にて対応し、より良い環境を目指している。 ・主体的保育について園内研修で形を変えていくことができるように取り組んでいる。 ・クッションや小さなソファを置き、小さなスペースを作り、子どもが落ち着いて絵本を読んだりして過ごせるように工夫している。 ・トイレ、手洗い場には手洗いの仕方を掲示、足形マークをつけて離れて待つことをわかりやすく示している。 	
<p>A-1-(2)-②</p> <p>【A3】 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。</p>	a
<p><コメント></p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの主体性を重視した保育を行うことを保育理念で明確に打ち出しており、その実現のために主任、ミドルリーダー研修を継続実施している。 ・本社から主体的な保育の事例共有を行い、園で実施できるサポートを行っている。今年度は園内研修として環境構成について取り組み、その経緯について写真で知らせ合い資料として共有し、他のクラスのよい点、困っていることなども話し合っている。 ・子どもの成長とともに関わり方についても配慮しており、子どもの意見や思いを尊重できるように努めている。何か援助するときには必ず声をかけ、子どもの気持ちに寄り添うことを大切にしている。おだやかにやさしく話すように、肯定的な声かけをするように意識している。 	
<p>A-1-(2)-③</p> <p>【A4】 子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。</p>	a
<p><コメント></p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフハンドブックに基本項目を記載し、入社時から研修を行っている。本社にて職員の育成及び環境の向上のため、本社内の各専門部署が対応し園のフォローを行っている。 ・子どもの基本的な生活習慣の確立については、スタッフハンドブックで具体的な時期や方法を示し、環境整備、援助が行えるようにしている。着替えなどは自分でやりたい気持ちを大切に援助し、一緒にたたむなど時間をかけて対応している。幼児は朝や帰りの支度を自分でするなど、すすんで取り組めるように声をかけ援助している。年長児は自分の道具箱を週末に片付けてきれいにすることができている。 ・トイレトレーニングについては子どもの発達の様子を家庭と共有し、子どもの気持ちに寄り添いながら無理なくすすめるようにしている。 ・年長児は就学に向けて昼寝時間をなくし、活動時間を増やしているなかで、乳児の寝かしつけのお手伝いも行っている。また、昼寝時間については保護者の希望も考慮し子どもの状況に応じて個別に対応し保護者に説明している。 	

<p>A-1-(2)-④ 【A5】 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。</p>	b
---	---

<コメント>

- ・年間にわたり本社研修以外にも園内研修で、各々の課題に応じて研修を実施している。
- ・主体的に活動できる環境構成や保育の展開については年齢別に研修を実施し、根拠を持って保育展開ができる援助をしている。
- ・子ども主体の活動は園の目標に組み込み、他園の主体的活動から学びあえる仕組みを構築している。
- ・園庭使用は1クラスずつとし、水遊びなど季節の遊びも取り入れている。栽培活動は各クラスのベランダを利用している。異年齢で近隣の公園や広場、距離のある公園まで歩いて出かけることもあり、森林公園でレクリエーションをするなど楽しめる工夫をしている。また、出かける前には交通ルールなど約束事を伝えるようにしている。近隣の企業との交流があり新年の挨拶やハロウィンで出かけることもある。
- ・行事にむけて協力し制作活動や運動、練習などを行い助け合いの姿が見られている。運動会では幼児クラス合同で開催につなげている。表現活動では、リトミック、リズムモン、楽器遊び、劇遊び、制作活動、など年齢発達に合わせて取り組めるよう援助している。

<p>A-1-(2)-⑤ 【A6】 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
---	---

<コメント>

- ・養護と教育の一体的な展開とその環境整備は、0歳児環境研修の中心課題として取り上げ、全園で学びあい実現できるようにしている。
- ・0歳児室はほふく室としてスリッパをはくように配慮し、子どもが安全に動き回れるようにスペースをつくり、パーテーションを使用して危ない場所に行けないようにしている。
- ・力をいれていることとして、保育時間が長いこともあり、巧技台、トンネルなどで室内で体を動かして遊んだり、手作り玩具を用意したりして楽しく過ごせるように工夫している。また個々のリズムに配慮している。担当が密に保護者と関わるようにしており、口頭や連絡帳で詳しく子どもの様子をやりとりしている。

<p>A-1-(2)-⑥ 【A7】 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
---	---

<コメント>

- ・養護と教育の一体的な展開とその環境整備は、1・2歳児各環境研修の中心課題として取り上げ、全園で学びあい実現できるようにしている。
- ・1歳児室は広く遊べるスペースがあり体操なども取り入れて体を動かして遊べるようにしている。合同保育でも使用しており、机上遊びのスペースも確保している。
- ・それぞれ年齢に合わせて絵本や玩具など好きな遊びを取り入れるようにしている。
- ・子ども同士の関りが増える時期であるため、発達過程で生じるトラブルについては入園時に保護者に伝え、理解を促している、かみつきなどが起こった場合は全体で共有し、ヒヤリハットインシデントで再発防止に努めている。状況に応じて保護者にも伝え謝罪している。
- ・2歳と3歳は同室での保育であるがパーテーションで区切り、育ちに合わせて設定を変更している。朝夕は一緒に遊び、日中活動はそれぞれで行うなど年齢ごとの遊びを保障している。2歳は発表会、ふれあい遊びでリトミックを行った。主体的な保育として、昼食時間は個々に食べたいタイミングで始めるように援助している。

<p>A-1-(2)-⑦ 【A8】 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
--	---

<コメント>

- ・養護と教育の一体的な展開とその環境整備は、3・4・5歳児各環境研修の中心課題として取り上げ、全園で学びあい実現できるようにしている。保育室の玩具にも工夫し、興味関心を活動に反映できるように取り組んでいる。
- ・電車、ままごと、ブロックなどのコーナーを設定し、好きな遊びに集中して取り組めるように工夫している。指先を動かす遊びができるように小さな玩具も置いている。
- ・集団遊びも多く取り入れ、順番を待つことなど遊びのなかでルールを知らせている。廊下も活用して運動あそび、鬼ごっこ、体操などを取り入れている。
- ・保護者参加の行事は、コロナ禍において規模縮小や中止もある。発表会は各家庭1名参加で実施、運動会は写真動画でも見てもらうなど内容を工夫している。

<p>【A9】 A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p><コメント></p>	
<p>・全園共通テキストを指定し、発達障害基礎10講座、発達支援コーディネーター講座、気になる子巡回等の実施で、障がいのある子どもへの専門知識と、対応スキルを向上させる仕組みを作っている。 ・研修での知識や療育巡回による生活や接し方のノウハウを共有し、全体で共通認識を持ち保育にあたるように取り組んでいる。個別指導計画を作成し、他のクラスも確認できるようにしており、子どもに必要な支援について把握し、クラスにおいて他の子ども達と一緒に成長できるように援助している。 ・保護者とは必要なときは面談の時間を設けている。活動内容に応じて無理なく、個々に過ごせるように配慮しており活動の様子を詳しく保護者に伝え連携を図れるように努めている。</p>	
<p>【A10】 A-1-(2)-⑨ それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p><コメント></p>	
<p>・指導計画に「長時間保育の配慮」の項目を設け、在園時間にあわせた保育内容や方法に配慮している。希望によって補食または夕食を提供し落ち着いて過ごせるように配慮している。 ・子どもが安心してゆったり過ごせるように、くつろげるスペースを作り、寂しくならないように1対1で関わるようにしている。また、いつもはできないような遊びをするなど延長時間を楽しみにできるように工夫している。 ・引継ぎは各クラスの登降園チェックボードを使用しており、受け入れからお迎えまでの伝達事項を記入している。また、口頭でも引継ぎを行い、保護者に伝えるようにしている。ケガなどがあった場合は担任が直接伝えるように取り組んでいる。</p>	
<p>【A11】 A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。</p>	a
<p><コメント></p>	
<p>・5歳児環境研修および保育指導要録研修を実施し、小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。 ・園長の評価シートにも項目を記載し計画、実行を促している。 ・アプローチカリキュラムを作成している。小学校との連携では毎年訪問し活動、交流、質疑応答などを行っている。連携の様子はブログなどで伝えている。</p>	
<p>A-1-(3) 健康管理</p>	<p>第三者評価結果</p>
<p>【A12】 A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。</p>	a
<p><コメント></p>	
<p>・園で子どもの状況に変化があった場合は保護者に連絡し、降園後の対応について話し合い、必要に応じて看護師も同席し保護者と話している。 ・保健衛生担当者研修を実施し、季節別年齢別の子どもの健康観察のポイントを研修し確実な知識を持つように援助している。 ・看護師は巡回をして各クラスの全員分の連絡ノートを確認し、視診も行い子どもの健康状態を把握できるように取り組んでいる。0歳児の様子を確認し食事の介助に入ることもある。年間保健計画に沿って健康教育を行っており、今年度は手洗い指導、プライベートゾーンについては手作りの紙芝居やクイズ形式で5歳児、4歳児にわかりやすく伝えている。また、卒園までに和式トイレの使い方なども伝える予定がある。 ・保護者にむけて、保健日より感染症や季節の注意事項などについて伝え、相談にも応じている。SIDS予防についてはポスター掲示、保健日より掲載している。園内研修では、嘔吐処理、熱があるときの対応などについて保育士に指導を行っている。</p>	
<p>【A13】 A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。</p>	a
<p><コメント></p>	
<p>・健診前に保護者に日程を伝え、嘱託医に質問したいことがあれば提出してもらっている。健診後に伝達事項がある場合には、健診結果と共に、必要に応じて話し合いをしている。 ・健診結果により、嘱託医やかかりつけ医と連携を図っている。内科検診・歯科検診は健康台帳、歯科の記録を残し、保護者には受診までに医師に聞きたいことなどを事前にとり、返答内容を返している。健康台帳のほか、毎月「発達記録」を配布し内科健診の結果や身体測定の結果を保護者と共有するほか、日々の連絡帳でも連絡を取り合い既往症については、職員に周知している。</p>	

<p>A-1-(3)-③ 【A14】 アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。</p>	a
---	---

<コメント>

<ul style="list-style-type: none"> ・医師からの「保育所におけるアレルギー疾患生活管理指導表」に基づき保護者と話し合い、適切な対応をしている。 ・除去食を提供する場合は、色の違った専用のトレーに名札と顔写真を添付している。園長と担任の2名以上で確認し、調理職員が直接子どもへ届けている。 ・看護師がアレルギー疾患に関する知識や情報を、全職員に説明している。医師の指示書に従い薬の預かりを行う場合は、職員へ周知し、依頼書と使用方法を手順をファイルし、看護師以外も使用できるようにしている。看護師は、日常の子どもを知ることを心がけており、いつもと違う様子などを把握できるように努めており、対応できるように取り組んでいる。
--

<p>A-1-(4) 食事</p> <p>【A15】 A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。</p>	a
---	---

<コメント>

<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの嫌いなものを無理に食べさせるようなことはせず、量を減らしながら、次第に食べられるようになるよう形状等も工夫している。子ども達が自分で食べる順番を決められるように、主菜・副菜・デザート等すべて一度に提供している。 ・日本の郷土料理を月1回、諸外国の料理は月2回、英語活動と連携してメニューに取り入れて、子ども達の食への関心を高めている。 ・調理師が不定期で保護者や子ども達に、食に興味・関心が湧くような掲示物を作成し、親子で食に親しむ機会を提供している。クッキングでは、パンケーキかざりつけ、乾物などの食材を見せるなどを行っている。 ・栽培活動はピーマン、オクラ等夏野菜を収穫し子どもと一緒に考えた味付けを提供している。月1回テーマをきめて子どもの興味がわくような内容を給食室近くに掲示している。

<p>【A16】 A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。</p>	a
--	---

<コメント>

<ul style="list-style-type: none"> ・旬の食材を取り入れているほか、珍しい野菜を給食に取り入れている。その際は、栄養士から子ども達に話す場を設けたり食材に触れる場を設けている。 ・栄養士・調理師の研修を毎月実施し、安全な食提供、献立作成の知識を持てる援助をしている。 <p>コロナ禍以前は職員も指導食を子どもと一緒に食べ、食事に対して共有できるように取り組んでいた。毎月の給食会議では残食なども把握し、献立に反映できるようにしている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事食では、盛り付けなどに工夫を凝らし、誕生日は特別感が味わえるようおやつにも工夫している。季節の行事では栄養士が由来などをわかりやすく伝え、話に興味をもってもらえるように食材に触ったりできるようにしているほか、だしの日には味覚を感じてもらえるように飲み比べを行っている。

A-2 子育て支援

<p>A-2-(1) 家庭と緊密な連携</p> <p>【A17】 A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。</p>	<p>第三者評価結果</p> <p style="background-color: yellow;">a</p>
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドキュメンテーションやブログ等で、園の活動の様子を保護者に分かりやすく共有している。 ・「保護者とつながる＝共鳴する」を理念に掲げ、入社時研修から家庭との連携を学んでいる。年間計画でも家庭との連携の方針や行事計画を立案。保護者会、個人面談、保育参加等保護者の意向を伺い保育に参加できる機会を持っている。 ・運営委員会を設け保護者の意見が保育に反映できる体制を作っている。玄関に、幼児クラスは今日の様子を掲示して、乳児クラスは連絡帳で個別に伝えている。 	
<p>A-2-(2) 保護者等の支援</p> <p>【A18】 A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。</p>	<p>第三者評価結果</p> <p style="background-color: yellow;">a</p>
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者から相談があった際は必要に応じて事務所にて面談を実施し、園長も同席している。 ・「相談・対応ノート」を作成し、共有できるようにしている。 ・連絡帳やコドモンシステムを駆使し、園からの情報と家庭からの情報の共有を円滑に行い対応している。 ・本社工催の子育て講座を行い、子育て情報が得られる環境を作っている。面談は、1回実施している。保護者からの相談にはいつでも応じる体制であり、必要に応じて声をかけている。相談内容によって担任ではわからないことは、園長より助言をもらうようにしている。面談記録シートで園での生活の様子などを伝え、園長に確認してもらう。 	
<p>【A19】 A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。</p>	<p>第三者評価結果</p> <p style="background-color: yellow;">a</p>
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・虐待が疑わしい場合でも区役所へ報告し、継続的に経過を見守っている。 ・職員は送迎時の保護者の様子などで、気になることがあれば積極的に話しかけるようにし、視診で気になる怪我や傷があった場合は、写真に撮り、日誌に記録している。 ・園長・主任が虐待の最新情報を学び場を設けている。虐待防止マニュアルを完備し、園内教育を行っている。 ・子どもの身体観察や言動に注視し保育をしている。問題が発覚した場合は即座に本社、行政と連携を行って対応している。 	

A-3 保育の質の向上

<p>A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）</p> <p>【A20】 A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。</p>	<p>第三者評価結果</p> <p style="background-color: yellow;">a</p>
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員一人ひとりが年間の目標設定を行い、園長と合意している。中間園長面談を実施し進捗を確認を行っており最終的に自己評価を行い、保育の専門性向上に努めている。 ・毎月の指導計画は、主任（リーダー）が援助し、PDCAサイクルをまわし保育実践の改善を行うよう努めている。 	